
現代では地味な俺が戦国時代では英雄?

ライトハウス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現代では地味な俺が戦国時代では英雄？

【Nコード】

N3496BA

【作者名】

ライトハウス

【あらすじ】

歴史オタクとなった俺は

先祖の事を調べていると

何故か戦国時代に来てしまった？

歴史の頭の良さを使い次々と戦を

勝ち抜いて行く俺はいつまにか軍師と

なりそして英雄と賞賛されていたのも

束の間俺の知らない歴史になってしまった！

いったいどうすれば良いんだ？

俺は歴史オタク（前書き）

陰陽師はじめましたを優先と
するけれどこちらも書いていきたいと
思います！宜しく願います！

俺は歴史オタク

「これで授業を終える。おまえら三年は今年が勝負の年だからな死ぬ程勉強しろよ？担任だからこそ君達には頑張ってほしいんだ？いいな？」

「やつと猪田の話が終わったか」

俺の名前は千堂修司、市立光明東中に通う中学三年生、と言っても先月までは二年生だった。

三年生と言う事で俺は受験生、

こんな面倒くさい事は俺の人生の中で堂々の一位だろう（笑

成績は中の上オール3ならとても普通だと思う…

だが俺は違う、社会が5なのだ？

といっても専門は歴史のみ地理だけなら3であろう。

「帰ろつと？」俺の呟きを察知したのか誰かが俺の前に立ちはだかった

「待て修司？バスケ部に戻ってこいよ？副キャプテンのお前が辞めるなんて考えねえぞ？」

こいつは富士谷葵、バスケ部キャプテンの超イケメンやろーだ？そして保育園からの幼馴染だ？

ここのバスケ部は県内でもトップクラスのチームだ、葵は県の選抜にも選ばれる程の選手だ、当然副キャプテンだった

俺も県の選抜に選ばれていた。

じゃあなぜ辞めるの？と思うだろう

俺が辞めた理由それは

バスケが好きじゃないからだ

「だから言っただろ？俺はバスケが好きじゃないから辞めたんだ、もうほっとけよ」

「ほっとけねえよ？お前、歴史オタクになりやがって…馬鹿か？」

「うるせえ？お前には関係ないだろ」
そおいい俺は教室を出た

「歴史オタクかあ（笑）」

そう言われても仕方ない、それに言われても何とも思わない。

俺は初めて自分が真剣になれるものを見つけた、だからバスケを辞めても悔いは無かった…

心残りはあるが…

「美咲…怒ってるだろうな」

植田美咲、俺の幼馴染だ！

美咲は女子バスケ部のキャプテンで

俺の元彼女だ…俺がバスケ部を辞めるのと

同時に美咲の事を振った…

理由は沢山あるが1番は葵が美咲の事を好きだったって事だ。その事に気付き俺は別れた。

色んな事を考え俺は目的の場所に着いた

【小谷城】

ここは浅井長政が自害した城である

〳〳浅井長政〳〳

浅井氏を北近江の戦国大名として成長させ、妻の兄・織田信長と同盟を結ぶなどして

浅井氏の全盛期を築いたが、後に信長と決裂して織田軍との戦いに敗れて自害。

浅井氏は滅亡した。

なぜ俺がここに来たかと言うと

何と俺の祖先が武士だったとわかったからだ？そして主君は浅井長政だった、

それなら城に行けば少しは名前があるかもしれないという期待を持ちきたのだ

「とりあえず探してみるか」

俺は中に入り探索を開始した
すると思っただよりもはやく目的の物が
見つかった！

「あつた！これは本？」

本の表紙に名前が乗っていた

【時を越えて】

千堂 元親

「千堂元親って名前なのか…」

それより何でこんな本を書いたんだ？
時を越えて？変な名前だ…」

その事を考えてると急に頭に頭痛が

「っあっ？頭がはち切れそうだ」

俺はそのまま意識を無くした…

「ここは何処だ？」目が覚め辺りを見回すと

そこには一人の武者がいた…

どうやらここはそいつの部屋の
ようだ…そして本を書いていた

「何を書いてるんだ」

【時を越えて】…えっ？時を越えてって

千堂元親が書いたやつでしょ？

ここ、戦国時代？」

先祖とのご対面？

っ…待てよ待てよ、あり得ないって？

何で俺がタイムスリップしちゃったの？

しかも、先祖の部屋だぞ？

うん…夢？夢だ？

俺は顔を引きちぎる勢いでつねった

「いたあゝい？」

つい大声を出してしまった…

「曲者？お主は誰だ？」

先祖様に気付かれてしまったようだ

手には刀を持っていて頭がチョンマゲで

刀？……………

殺される？

「ちよつと待った？俺も何でいるか

知らないし、まだ死にたくなあゝい？」

「お主名前は？」

「千堂修司？ほら千堂だよ！

せ・ん・ど・う？」

「千堂？奇遇だな俺も千堂だ名は」

「元親？でしょ？」

「何で名前を知ってるんだ？」

「苗字が同じなのは奇遇とかじゃない…

俺は貴方の子孫なんです？」

「お前みたいな子供はいないぞ？」

「ちがゝう？子供の子供のずーっと子供だよ？（この人馬鹿か？）」

「どういう事だ？何故修司殿はここにいるんだ？」

「俺が教えて欲しいよ…」

あんたの【時を越えて】っていう

作品を手にしたら、いきなり気を失って
気付けばここと事？」

「なっなんで本の事も知ってるんだ…」

これは今のこの軍の状況を変えるために
書いている本なんだ…

本といっても一ページしかないが…

んっ待てよ？」

そおいい先祖様は本を取りに行つた

「まさかこの本が？」

「どうしたんですか？」

「まさかと思うんだけどこの本に

【未来より来せし我の先祖が

この軍の悪雲をはらい英雄となる】って
書いたんだよ…」

「Oh？NO、それだよ？そのせいで

呼ばれたんだよ俺？しかもこの軍を救うって
誰から攻められるの？」

「明後日に織田、徳川連合軍が攻めて来る」

最悪だあ…姉川の戦いの事じゃないか…

くくく姉川の戦いくくく

織田・徳川連合軍対浅井・朝倉連合軍の戦い。

結果は当然織田連合軍、織田軍には

その後の天下とつた織田・羽柴秀吉・徳川裏切り者の明智光秀など名だたる武者がいた。負けるのも当然だ…

「無理です？いくら未来から来たって言っても相手が悪過ぎます？」

「そこを何とかお願いする？」

と言うといきなり部屋のふすまが開き見覚えのある顔が入って来た

「元親？こんな夜中にうるさいぞ？」

「長政様…すいません…」

見覚えがある…あり得ないが、やはりそうだ…

「富…富士谷じゃないか？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3496ba/>

現代では地味な俺が戦国時代では英雄？

2012年1月9日19時50分発行